

# 子どもは未来をつかみたい



2009年度出版図書



## 2009年度 年次報告書 2009年7月1日-2010年6月30日 2010年度 年次計画書 2010-2013年度 中期計画書

目次

2009年度 事業報告	
この1年 .....	1
出版プロジェクト .....	2
読書推進運動 .....	3
子どもセンター .....	4
国内事業 .....	5
組織運営 .....	6
2009年度 会計報告・2010年度収支予算...	8
2010年度 事業計画 .....	9
2010-2013年度 中期計画 .....	10

# この1年

東南アジアで実質国内総生産成長率が一番高い国は？と問われると、シンガポールやマレーシアだと思いがちですが、2008年約7.2%、2009年約4.4%（日本アセアンセンター）と最大の成長率を示しているのがラオスです。もともと経済規模が小さいことから、伸び代が大きくなるのですが、ここ数年のラオス社会の変化を裏付けるデータと言えましょう。（一人あたりのGDPは08年840 USドル）

昨今、ヴィエンチャンでは市場がショッピングセンターに衣替え、家族連れで賑わう飲食チェーン店がオープンし、メルセデスベンツやBMWなど、これまででは考えられない高級欧州車の代理店が、幹線道路沿いに並ぶようになってきました。またルアンパバンでは、欧米からの観光客が通りにあふれ、昔の時間が止まったような静かな街並みは、既に消えてしまいました。

外から見ると、このような経済の活発化、社会の劇的な変化がラオス全土を覆い尽くしているかと錯覚しますが、ヴィエンチャンから車で1時間も行けば、携帯電話をもち、各戸に電気が届いている以外は、20年前とほとんど変わらない生活が続いています。さらにそれぞれの地域で経済格差がどんどん広がってきています。

教育においても、ヴィエンチャンでは公立学校の教育水準に不満を持つ一般のラオス人が、子

どもを私立学校に入れることはごく普通のこととなり、塾通いが日常となるほど教育熱が高まる一方、地方の学校では教材、図書はほとんど無く、教師の意欲も低く、黒板に書かれた内容を暗記するだけの教育が継続しています。私たちは、NGOとして、このようなラオス社会の多極化に対し、どのように対応をしていくのかを問う一年でした。

今年度は、＜中央よりも現場をより丁寧に＞＜満遍なくでなく地域ポイントを明確に＞＜子どもの意見を反映し、担い手として育てる＞という現中期計画の評価活動をおこない、さらにその先をどう組み立てるか、繰り返し話し合いました。その結果、「現地化」の視点を軸に、自発的な活動の担い手の育成と、出版活動でも識字活動においても、「量」よりも「質」を大切に、「出張（出前）活動」を通じて、今まで以上に子どもたちの「現場」を大切にすることが合意されました。

それらのプロジェクトを支える組織運営は、会計システムを変更するなど準備の結果、4月に国税庁より「認定NPO」として認められ、ご寄付の方には税制の特典を使っただけのようになりました。また定期的なボランティア、インターンの支援により、日常業務の効率化を進めています。しかし、今年度の最大の問題は、資金調達が充分でなく、自己資金でのプロジェクト費や事務経費が増加し、大きな赤字を生んだことです。これは、この数年力を入れてきた組織力の改善がまだ充分でないことを示し、組織として正念場を迎えています。

事務局長 野口朝夫

ルアンナムター県 2009年度 事業対象地域図



## ラオスでの主な活動

### ◆出版プロジェクト

子ども向けの図書がほとんどないラオスで、ラオス語図書を出版しています。1990年より、ラオス語図書169種類74万冊（図書141/紙芝居12/教科書6/ニュースレター10）をラオスで出版しました。

### ◆読書推進活動

図書を学校に配布し、学校図書室を開設して、図書と読書活動の普及を進めています。1992年より、ラオスの小中高校約9,600校のうち2,721校に図書を配付し、203校で学校図書室を開設しました。

### ◆子どもセンター

子どもが集い、遊び学べる場、自己表現の場としての役割を持つ子ども文化センターの活動を支援しています。現在、全国12ヶ所の子ども文化センター及び関連施設の運営を支援しています。

# I 出版プロジェクト

## <計画>

- ◆「当会でなければ出版できない図書」をめざす。
- ◆図書、紙芝居8作品、各2,000～5,000冊を出版する。
- ◆少数民族向け図書、ドリルの出版に取り組む。
- ◆新人作家や編集者の育成をおこなう。
- ◆本の流通システムの拡大を図る。

## <実績>

### I. 出版

図書8作品、紙芝居2作品、ハンドブック1作品、計36,560部を出版しました。ドリル作りは、社会状況を判断して再検討することになりました。多忙のため担当者が仕事をこなさきれず、予定通りに出版出来ない状況が続いています。

### II. 出版作品(作品名/著書/出版部数/主な支援者)

#### ■ 図書

『少女ヌアンドーム』

作)ウティン 絵)シッコー

3,000部 外務省=NGO連携無償資金協力事業



『穴に落ちたヒヨコ』

作)オートン 絵)ヴォンサワン

3,000部 外務省

『サンシンサイ』作)パンカム

2,060部 キヤノン(株)



『シナーとユウ』

作・絵)ヴァンマイ

5,000部 学習院女子大学

『カメくん』

作)スックサワン 絵)ウトン

4,500部 沖電気工業OKI愛の100円募金

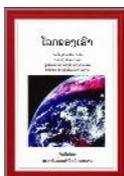


#### ■ 翻訳本

『私たちの世界』

作)フィリップ 絵)コンパット

訳)ダラヴォン 3,000部 外務省



『楽しい動物の話』

作)フィリップ 絵)サイサロン

訳)ダラヴォン 3,000部 外務省

『宮沢賢治』

作)西本鶏介 訳)チャンタソン

2,000部 大同生命国際文化基金



#### ■ 紙芝居

『これはジャックのたてたいえ』

原文: マザーグースより

絵)やべみつり 訳)ドゥアンドゥアン

2,000部 学習院女子大学



『これはジャックのたてたいえ』ミニサイズ版

絵)やべみつり 訳)ドゥアンドゥアン

5,000部 沖電気工業OKI愛の100円募金

\*第7期と第8期にかけて出版

#### ■ ハンドブック

『応急手当ハンドブック』

2,000部 国際ボランティア貯金



#### ■ 読書推進ニュースレター

『Deknuy Lao』第10号

2,000部 自己資金

### III. コンクール

幸せ、繋がり、環境、文化などをテーマにした小説を、一昨年度末から募集していますが、文章量が多いためか、応募が少なく、再度検討するために実施が保留となっています。

### IV. 本の流通システムの形成

#### ■ 図書販売コーナーと本の流通

都市部では「本を買う」ことが徐々に理解されるようになり、当会事務所の図書販売コーナーやイベントでの販売は順調に定着してきています。委託販売先は減りましたが、事務所内やイベントでの売上は増加し、全体売上額は12,512ドルと、昨年比で35%増加しました。

## II 読書推進運動

## <計画>

- ◆図書室がある小学校73校にて図書活用セミナーを開催する。うち46校にて巡回指導を実施する。
- ◆学校図書室を10校にて新規開設し、3年以内に開設した44校に図書を補充する。
- ◆40校に図書を補充し、巡回指導を実施する。

- ◆読書推進センターの整備を進める。
- ◆15校にて図書を新規配付し、個別に訪問して読書推進活動を行う「出前活動」を実施する。
- ◆当会出版の図書セットを80校程度に提供する。
- ◆教員養成校8校にてラオス語教育指導者を育成する。

## <実績>

### I. 本を読む環境の整備

#### ■小学校における図書活用強化事業

図書室がある学校で、授業に図書を副読本として活用できるように、下記事業を実施しました。

- ・セミナーで配付する教材、4作品各3,000部を出版。
- ・学校教員を対象に、授業での図書活用のしかたを教える「図書活用強化セミナー」を実施。6県72校より144名の教員が参加し、各3日間5回にわたり開催。
- ・セミナー対象校のうち約半数に対して、指導員チームが巡回指導。

巡回指導によって、図書をよく活用できている学校、図書室自体が機能していない学校など、学校間で活用状況に大きな差があることがわかりました。

(ご支援：日本NGO連携無償資金協力事業)

#### ■読書推進運動の自立的運営の定着化事業

05年～08年に実施されたJICA草の根技術協力事業「ラオスにおける読書推進運動の自主的運営のための拠点構築事業」により、配付対象校の半数以上では図書室を自主的に運営され、読書推進運動を自立的に担う人材が育成されています。

一方、「学校での図書利用の時間が短い」「図書の内容を読解できない子どもが多い」「読書推進センターの活動が定着していない」などの課題が挙げられ、これに取り組むため、2010年3月より、学校での図書活用方法の指導や、読書推進センターの活動安定化のため、2年間の事業を開始しました。

(ご支援：JICA草の根技術協力事業)

#### ■図書室（ハックアーン）整備

小中高校の空き教室などを利用して、学校図書室に必要な図書と備品を整備し、開設時には図書活用セミナーを実施します。今年度は6県・14校にて開設し、累計203校になりました。

ルアンナムター県 中学高校2校  
サイヤブリ県 小学校1校  
サワンナケート県 小学校2校、中学高校3校  
アタプー県 小学校2校  
フアパン県 小学校1校、中学高校1校  
カムワン県 小学校1校、中学高校1校  
合計14校（小学校7校、中学高校7校）

3年以内に開設した図書室44校への図書補充も実施しました。本年度は、訪問した際に活動状況を調査し、活動が出来ていない学校には図書は渡さず、既にある図書を十分に活用できるよう、図書活用の基礎を再研修しました。この結果、44校のうち33校に図書セットを配付しました。

(ご支援：恵泉女学園中学高等学校、鈴木登志江、早川要清・和田慎二、福岡那の香ライオンズクラブ、ベルマーク教育助成財団・友愛援助運動参加校、三井住友銀行ボランティア基金、武庫川女子大学付属中学高等学校・図書情報委員会、Lao-Japan Airport Terminal Service Co, Ltd. (L-JATS)、リーグルジャパン株式会社：五十音順)

#### ■学校出前活動（新規配付）

今年度は出張スケジュールに余裕がなく、新規配付での出前活動は1校のみの実施となりましたが、当会出版の図書を無償提供する活動を215ヶ所（約13,000冊）に実施しました。

#### ■読書推進活動関係者会議

当会の呼びかけにより、ラオスで読書推進活動を実施している関係者の連絡会議を開催しました。日程の都合で、国立図書館や教育省は出席できませんでしたが、NGO4団体が出席し、情報交換を行いました。

#### ■プロジェクトの効果と効率を高める活動

積極的な読書推進活動をしている学校を表彰する活動の準備を進めており、10年8月に実施する予定です。

### II. ラオス語教授法プロジェクト

教員養成校におけるラオス語（国語）教育の教授法を確立し、全国の教員養成校でトレーナーを育成する事業の2年目にあたる本年度は、8校の教員養成校ラオス語教員34名を対象に、各4日間の「ラオス語教授法改善セミナー」を2回実施しました。

また、マニュアル作成のため、昨年受講した教員養成校教員のうち優秀者11名を対象に、5日間の「ラオス語教授法マニュアル作成セミナー」を実施しました。参加者の原稿をもとに、講師らが加筆修正し、マニュアル作成が進んでいます。

あわせて、ドンカムサン教員養成校にて、小学校教員課程1年生217名を対象に、2日間の「ラオス語教授法模擬セミナー」をおこないました。

(ご支援：日本国際協力財団)

### III. 救急法セミナー

学校現場での保健衛生の知識の習得と、救急処置技術の普及をめざして、「応急手当ハンドブック」を2000部印刷し、127名の学校教員や子どもセンター職員を対象に、2日間の研修を、5回実施しました。

(ご支援：国際ボランティア貯金)

### III 子どもセンター(CCC、CEC)・その他の活動

#### <計画>

- ◆11館の運営支援を継続。新規小規模センターの支援を1～2カ所増やす。
- ◆担当スタッフが全てのセンターを巡回し、各センターの活動状況を把握する。
- ◆青少年活動の専門家を長期派遣するための準備を行う。
- ◆事務所を図書室運営にふさわしい場所に移転すべく、検討をすすめる。

#### <実績>

##### I. 子どもセンターの運営支援

###### ■運営支援

ラオス政府情報文化省管轄の子ども文化センター(CCC)や、教育省管轄の子ども教育開発センター(CEC)は、全国に約41ヶ所設置されています。

当会は、今年度は以下12ヶ所(継続10ヶ所、新規2ヶ所)の運営支援をおこないました。

- ・大規模センター 4館  
ボリカムサイ県CCC、ルアンパバン県CCC、ヴィエンチャン都CEC、サイヤブリ県CCC
- ・小規模センター 6館  
ヴィエンチャン都シーサタナーク郡CCC、サイヤブリ県ゲンタオ郡CCC、ポーテン郡CCC、パクライ郡CCC、ノンセンチャンCDC(子ども開発センター)、ハクアーン34クラブ
- ・新規支援 2館  
サイヤブリ県CEC、ボリカムサイ県ボリカン郡CCC

###### ■子どもセンターの活動状況

ルアンパバンCCCは、09年6月、県情報文化局の都合により突然移転となり、スペースと活動規模が若干縮小されました。サイヤブリ県CCCは、同じ敷地内の県立図書館の建て替え期間中は活動を休止し、10年1月に再開しましたが、サイヤブリ県CECが近くで活動していることもあり、最近では活動が停滞しています。ボリカムサイ県のターパバート郡CCCは、館長の異動などで活動が継続できなくなり、09年7月より支援を中止しました。



(ご支援：  
三井住友銀行ボランティア基金、ミクプランングMCC、指定募金)

###### ■子どもブックフェスティバル開催

09年12月に、ボリカムサイ県にて「子どもブックフェスティバル」を開催しました。同県ボリカン郡子ども文化センターの開設に伴い、開設式とフェスティバルを同日に行いました。本の紹介をはじめ、子ども達の歌や踊りの披露、絵本販売、様々な特別講座などの催しが行われ、たくさん子どもたちが参加し、楽しみました。

10年3月には、当会の呼びかけで、他の読書推進NGOや出版社と協力し、ヴィエンチャンCECで、ブックフェスティバルを開催しました。

###### ■スタッフによる巡回

過密な出張日程や人材不足から、ラオス事務所の担当スタッフが十分に時間をかけて巡回することはできませんでしたが、全てのセンターを1～2回訪問し、活動状況の把握ができました。

##### II. 専門家派遣

長期にわたり青少年活動の人材を指導、育成する専門家の派遣はできませんでしたが、ラオスと日本で活動するパフォーマーのあさぬまちずこ氏を1ヶ月間派遣し、3ヶ所の子どもセンターにて、子ども向けの身体表現ワークショップを実施しました。身体表現に必要なテクニックをゲームの形で伝え、子ども自身の持つ能力を引き出しつつ、参加者全員で作品を創作し、最終日には地域住民や父兄を招き、発表会をおこないました。

(ご支援：今井記念海外協力基金)

##### III. その他の活動

###### ■事務所図書室活動

ラオス事務所1階図書室の利用者減少に対する改善策を検討してきた結果、現在の地域は市街地化し、図書室の需要が減りつつあるとの判断から、より図書室運営にふさわしい市内東部に、2010年9月に移転することを決定しました。

###### ■IBBY朝日国際児童図書普及賞関連会議出席

ニューデリーでの会議に、スクパンサーがチャントソンに同行し、会の活動発表と、インドの出版事情について情報収集をおこないました。

###### ■受託事業

和光石原奨学金(教員養成校学生を対象)、特定小学校・施設への図書・教材等支援への協力をおこないました。

(ご支援：石原静子、小田原ユネスコ協会、鈴木茂、BDP(Budhist for development project)、IFAD、Kerstin Rosen、PLAN

# 国内事業

## <計画>

- ◆豊かな情報発信と頻繁な更新により、ホームページのアクセス増加をはかる。
- ◆ニュースレターは年3回の発行を継続する。
- ◆首都圏以外で、積極的な広報活動をおこなう。
- ◆主催イベントを中心に、イベントを実施する。
- ◆ラオス語翻訳貼付絵本につき、著作権の再確認作業を進める。

## <実績>

### I. 広報

#### ■ホームページ

ホームページは、更新のタイミングなどが充分でなく、アクセス数は10%程減少しました。ラオス情報の更新、英文ページの作成などは、完成度を高めるため、不可欠で、改善を進めます。

#### ■ニュースレター

ニュースレター「ラオスのこども通信」は、年3回、計5,400部発行しました。46号（7月発行）は「特集：小学校“子どもの日”出張イベント」、47号（12月発行）「プロジェクトの動き“先生の育成、みっちり4日間”」、48号（4月発行）は「特集：子どもの“居場所”と“自己表現の機会”」を取り上げました。年次報告書を12月に発行しました。

#### ■広報活動の拡大

首都圏以外での支援者拡大活動として、パソコンやプロジェクターを活用し、福岡県や島根県で活動紹介や講演をおこないました。また、活動紹介DVDを制作し、貸出を開始しました。池田市とのラオス語絵本プロジェクトなど、地方公共団体との連携も行いました。

（ご支援：日本国際協力システム「組織基盤強化事業」）

### II. イベント

今年度は、下記主催イベントを実施しました。

- 9/8-13 スタディーツアー
- 12/10-15 「ラオスの織物展～布に込められる夢」
- 2/13 勉強会「すみからすみまでラオスを旅して」
- 3/7 福岡NGOネットワークにて活動紹介
- 4/14-16 出雲にてチャンタソンのトーク
- 4/24 「サバイディ・ピーマイ・パーティ2010」
- 6/12 勉強会「ラオス料理教室」
- 6/25 交流事業「子どもたちの感じるラオスの今」
- 6/30 交流事業「ラオスの世界によろこそ！」

（詳細は7ページをご覧ください）

これらのイベントを通して、多くの参加者に会

の活動やラオスの文化を紹介できました。また、福岡や島根、大阪など首都圏以外での活動紹介が実施できました。さらに大田区の支援により、初めてラオスの子どもたちを招聘し、日本の中高生やご支援者との交流イベントを開催しました。この1年間、イベントボランティアとして活動してくれた方は延べ226名でした。

（ご支援：日本国際協力システム「組織基盤強化事業」、大田区「地域力応援基金助成事業」）



### III. ラオス語絵本プロジェクト

日本の指定絵本にラオス語の翻訳を貼り付けてラオスに送る活動は、今年度は533冊、7年間で累計5,560冊の絵本を送りましたが、昨年度より約30%減少しました。著作権の再確認作業が進められ、各社より絵本使用の同意が得られつつあります。

### IV. 書き損じハガキ収集キャンペーン

今年度は97件、書き損じ・未使用ハガキ 4,493枚、未使用切手35,006円分、計241,446円分のご支援をいただきました。ハガキの使用自体が減っているためか、昨年より金額で9%程減少しました。

### V. スタディーツアーの開催

09年9月8日～13日に実施しました。一般参加者4人に代表・事務局2名と、参加者は少人数でしたが、学校やCCCの現場を訪れて子どもたちと交流し、活動の意義を実感してくれました。

### VI. ネットワーク活動

当会は、国際協力NGOセンター（JANIC）正会員、教育協力NGOネットワーク（JNNE）会員になっており、共同代表森透がJNNE副代表を務めました。また、学習院女子大学の授業に、講師として事務局長野口朝夫を派遣しています。

# 組織運営

## I. 全体運営

### <計画>

- ◆理事会は年6回程度とし、実務者会議にて、意思決定の迅速化を図る。
- ◆認定NPO法人資格取得の申請準備を進める。
- ◆活動会員90名、サポーター会員160名を目指す。
- ◆外部に開かれた勉強会を定期的開催する。
- ◆ラオス・東京にて、中期計画評価・策定会議を開く。

### <実績>

#### ■理事会

09年の総会で理事改選がおこなわれ、識字、絵本等の専門性を持つ新理事が3名加わり、9名となりました。今年度の理事会は計3回開催しました。また、運営実務に関しては、共同代表、事務局長、スタッフによる会議が、月1回開催されました。

#### ■認定NPO取得

認定NPO法人資格申請を行い、2010年4月に国税庁より認定を受けました。

#### ■会員

安定したご支援者を増やすため、サポーター会員加入の働きかけをしてきましたが、その結果、活動会員68名、サポーター142名（内団体7）、うち新規サポーター会員として32名ご加入いただき、前年度より10%増加しました。

#### ■総会

9月19日、第7期2009年度通常総会を、活動会員41名（内11名書面表決、6名委任状）参加のもとに開催し、理事・監事改選、第7期事業報告、会計報告が承認されました。

#### ■運営会議・勉強会

報告・意見交換をおこなう運営会議を奇数月に行い、計6回延べ75名が参加しました。あわせて、ボランティアの勉強会チームの主導により、ラオスについて学ぶ勉強会を偶数月の第2土曜日に開催しました。2月「すみからすみまでラオスを旅して（川口正志氏）」、6月「ラオス料理教室（チッタポン氏）」をテーマとして計2回開催し、それぞれ55名、24名が参加しました。

#### ■中期計画の評価と策定

09年7月に、ラオス事務所スラピー事務局長が来日し、中期計画の評価会議と報告会を実施しました。10年4月には、ヴィエンチャンにて、東京・ラオス両事務所の代表と事務局長とスタッフが出席し、次期中期計画策定会議を開催しました。

## II. 東京事務所

### <計画>

- ◆30%を目途に会員を増強し、会費収入を増やす。
- ◆インターン、ボランティアの役割分担を明確にし、専門性を高める。

### <実績>

#### ■体制

常勤スタッフ3名で運営されています。今年度は、新規のイベントや大きな国内プログラムが入りましたが、定期的なボランティア、インターンに、多くの業務を担ってもらうことができました。

#### ■資金調達

会費収入は昨年比約20%増加しましたが、一般寄附は10%程減少しました。一方で、CCC支援の資金調達が十分に出来ず、またプロジェクト遂行にあたって、自己資金による割合が増えた結果、全体では大幅な赤字となりました。

#### ■ボランティア・インターン

提携している学習院女子大学インターン生、事務所での定期的ボランティアの人数も増え、日々の活動の大きな力になっています。イベントボランティアも役割分担が促進され、安定した参加となっています。また、ボランティアによる勉強会チームは、計画、準備、実施を主体的におこないました。

## III. ラオス事務所

### <計画>

- ◆コーディネーターが、ラオス事務所事務局長としての働きができるよう、体制作りをおこなう。
- ◆資金調達額を昨年度の10%増を目標とする。

### <実績>

#### ■体制

09年度は、事務所運営を担うべき人材が地方出張などで不在が多く、組織運営上問題が残りました。新人を雇用しましたが、まだ運営上余裕がある体制になっていません。09年10月に、日本人駐在員が約1年ぶりに着任し、東京事務所との連絡調整、情報収集・発信力が改善されました。

#### ■資金調達

ラオス国内の民間企業や援助機関に対する資金調達活動により、フォード財団などから699,514円の支援を得ましたが、金額は昨年度比で10%減少しました。教育事業を実施する他NGOからの図書セットの注文は、増加しています。

# 2009年度 主催・参加イベント

## ■東京事務所（ゴシック体は主催イベント）

- 7/4 沖電気工業(株) ラオス語絵本貼りイベント実施
- 7/5 「ユニセフの集い 横浜開港資料館」に参加
- 7/10 田園調布雙葉中学校 に講師派遣
- 8/21-23 麻布十番納涼まつりに参加
- 9/5 富士ゼロックス端数倶楽部 ラオスイベント実施
- 9/8-13 スタディーツアー実施
- 10/3-4 グローバルフェスタJAPAN2009に参加
- 10/10-11 大田区羽田空港国際化記念イベントに参加
- 10/28 日蓮宗祈り題目の日イベントに参加
- 11/5 富士ゼロックス古本市に参加
- 11/7-8 大田区OTAふれあいフェスタに参加
- 12/10-15 「ラオスの織物展～布に込められる夢」開催
- 1/25 東京都立杉並総合高校に講師派遣
- 2/13 勉強会「すみからすみまでラオスを旅して」実施
- 2/16 大阪うつぼロータリークラブ卓話 にてトーク
- 3/7 福岡NGOネットワークにてアカウンタビリティ勉強会
- 3/8 福岡西ロータリークラブにて活動紹介
- 3/7 福岡NGOネットワークにて活動紹介
- 3/14 ifOTA講演会に講師派遣
- 4/14-16 国際ソロプチミスト出雲にてトーク
- 4/24 「サバイディー・ピーマイ・パーティ2010」実施
- 5/8-9 大森・大井夢フェアに参加

- 5/22-23 ラオスフェスティバル2010に参加
- 5/25 リコーテクノシステムズ「食べるボランティア」に参加
- 6/1 東京大森ライオンズクラブ例会にて講演
- 6/12 勉強会「ラオス料理教室」実施
- 6/23-7/2 大田地域力応援基金助成事業でラオスの中高生来日
- 6/25 交流事業「子どもたちの感じるラオスの今」実施
- 6/26 大田国際交流週間2010「世界を味わう！大交流会」参加
- 6/30 交流事業「ラオスの世界によこそ！」実施

## ■ラオス事務所（ゴシック体は主催イベント）

- 7/15-17 アジア人権基金訪問受入
- 9/10 外務省日本NGO連携無償資金協力契約
- 9/20 明治学院大学スタディーツアー受入
- 9/29 ヴィエンチャン ボート祭りにて図書販売
- 10/22-24 フランス語センターのブックフェスティバルで図書販売
- 12/5-6 ボリカンCCC開成式・子どもブックフェスティバル開催
- 2/7・11 学習院女子大学スタディーツアー受入
- 2/27 名古屋学院大学スタディーツアー受入
- 3/12-14 ヴィエンチャンCECにてブックフェスティバル実施
- 5/29 ボリカムサイ県の小学校でこどもの日イベント実施
- 6/1 ヴィエンチャンCECのこどもの日イベントに参加
- 6/25 マレーシア科学大学訪問受入

## 第8期 2009年度 会計説明

収入については、合計額は前期を上回りましたが、予算額を達成することは出来ず、予算の88%の収入に留まりました。前期に比べると増加した収入項目もありましたが、「イベント収入」を除く全ての項目で予算額を下回り、特に「一般寄付」「指定募金」の達成率が低い状況でした。支出の事業費については、出版事業は、前期で実施予定だった分が繰越実施したことにより、予算額を上回りましたが、他の事業費は予算を下回っています。事業費の合計額は、予算に対し92%の達成率でした。管理費では、法人税の支払いや人件費が増えたことにより、予算額を上回り108%の達成率となりました。この結果、収入に対しての支出が大きく上回り、当期収支差額が-292万円となってしまいました。繰越金のうち約435万円はプロジェクトが指定され、期を超えての実施が予定されています。会計担当監査役からは、赤字ではあるが、内容については事務局で分析されており、運営は適正で妥当と判断しているとのコメントがありました。また業務担当監査役からは、現地、

日本スタッフ共々きちんと評価活動を行われてきた結果、5次中期計画が策定されている。計画の根本にあるのは、ラオスにおける自立的な活動をどう作り上げていくのかという点。昨年の活動としては、不足もあるかもしれないが、財政的裏付けがないと実施が出来ない。今後も、寄付・募金活動を強化していただきたいと、コメントがありました。

### 監査報告書

2010年 9月 23日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

代表 取締役  
チャンタワン インタウエン 殿

特定非営利活動法人 ラオスのこども

代表 取締役  
田中 邦子 殿

代表 取締役  
矢野 邦子 殿

当社は、特定非営利活動法人 ラオスのこども 第8期2009年7月1日から2010年6月30日までの会計年度について、事業報告と会計報告の監査を行なった結果、適正であることとを認めます。

以上

### 正味財産増減計算書

2009年7月1日から2010年6月30日まで

科 目	金 額	
I 増加の部		
1 資産増加額		
期末商品棚卸高	7,035,960	
当期収支差額		7,035,960
増加額合計		7,035,960
II 減少の部		
1 資産減少額		
期首商品棚卸高	7,602,195	
当期収支差額	2,942,448	
減少額合計		10,544,643
当期正味財産増加額		-3,508,683
前期繰越正味財産額		22,014,380
期末正味財産合計額		18,505,697

### 貸借対照表

2010年6月30日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	292,807	
預金	8,219,430	
外貨	1,887,325	
図書	6,975,973	
商品	59,987	
貯蔵品	56,348	
未収入金	1,008,000	
前払費用	141,060	
仮払金	187,936	
流動資産合計		18,828,866
2 固定資産		
什器備品		
固定資産合計		0
資産合計		18,828,866
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	11,574	
未払費用	140,852	
預り金	135,943	
仮受金	34,800	
流動負債合計		323,169
負債合計		323,169
III 正味財産の部		
正味財産		18,505,697
(うち当期正味財産減少額)		(3,508,683)
負債及び正味財産合計		18,828,866

第8期2009年度 会計報告 2009年7月1日～2010年6月30日 第9期2010年度 収支予算 2010年7月1日～2011年6月30日

I 収入の部

(単位:円)

科目	2008年度決算	2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算
会費・寄付金 小計	6,996,527	7,760,000	6,347,672	8,310,000
活動会費	950,000	1,250,000	1,138,000	1,250,000
一般寄付	4,154,246	4,400,000	3,627,972	4,200,000
指定募金	1,892,281	2,110,000	1,581,700	2,860,000
プロジェクト援助金 小計	15,045,023	22,620,690	19,946,699	20,100,000
民間一般助成金	8,148,073	6,600,000	6,184,797	7,300,000
政府系補助金・助成金	6,124,225	15,020,690	13,062,388	11,300,000
現地受取補助金・助成金	772,725	1,000,000	699,514	1,500,000
その他 小計	7,083,833	6,400,000	6,176,155	6,800,000
販売収入	4,135,382	4,800,000	4,666,974	5,100,000
イベント収入	1,459,910	1,300,000	1,335,099	1,500,000
雑収入	1,488,541	300,000	174,082	200,000
当期収入合計	29,125,383	36,780,690	32,470,526	35,210,000
前期繰越金	15,548,093	14,412,185	14,412,185	11,469,737
□ 収入合計	44,673,476	51,192,875	46,882,711	46,679,737

II 支出の部

科目	2008年度決算	2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算
事業費 小計	23,673,907	29,945,340	28,277,057	25,760,815
出版事業費	1,470,357	3,175,900	3,615,144	2,554,550
図書紙芝居出版	935,072	2,069,800	2,685,131	2,460,500
救急法ハンドブック		981,100	829,418	
統括管理	535,285	125,000	100,595	94,050
読書推進事業費	16,681,541	17,657,200	15,739,683	17,946,925
図書活用強化事業		9,354,700	8,119,528	1,280,790
草の根技術協力事業	6,741,895	2,212,700	795,754	8,040,990
学校図書室・教員養成校	3,879,556	3,058,800	3,469,192	6,712,415
統括管理	6,060,090	3,031,000	3,355,209	1,912,730
子ども文化センター支援事業費	1,841,518	2,581,000	1,974,383	1,712,090
各センター運営支援	1,520,249	1,490,000	1,088,467	855,000
自立支援	90,367	650,000	515,584	570,000
統括管理	230,902	441,000	370,332	287,090
特別実施事業費	3,680,491	6,531,240	6,947,847	3,547,250
その他現地事業費	1,045,980	1,155,000	1,407,690	907,250
国内事業費	2,634,511	5,376,240	5,540,157	2,640,000
管理費 小計	6,587,384	6,635,000	7,135,917	8,651,655
東京事務所経費	5,653,502	5,690,000	6,253,690	7,687,500
家賃・水道光熱費	540,000	540,000	540,000	585,000
通信費・運搬費	210,236	220,000	228,723	180,000
事務費・記録費	146,258	150,000	159,199	130,000
広報費	923,986	950,000	681,918	600,000
人件費・交通費	3,227,980	3,330,000	4,040,721	5,677,500
備品消耗品費	205,547	100,000	7,970	20,000
諸会費・会議費	113,000	100,000	95,000	75,000
コピー機リース料・法人税				170,000
雑費	286,495	300,000	500,159	250,000
ラオス事務所経費	933,882	945,000	882,227	964,155
家賃・水道光熱費	170,676	180,000	156,375	228,000
通信費・広報費	42,595	51,000	21,432	37,050
事務費・記録費	41,371	60,000	64,457	51,300
人件費・交通費	558,203	449,000	369,310	322,905
備品消耗品費	31,386	60,000	39,500	39,900
諸会費・雑費	89,651	145,000	231,153	285,000
予備費		200,000		150,000
□ 当期支出合計	30,261,291	36,780,340	35,412,974	34,562,470
□ 当期収支差額	-1,135,908	350	-2,942,448	647,530
次期繰越収支差額	14,412,185	14,412,535	11,469,737	12,117,267

## I. 全体方針

第5次中期計画の初年度にあたり、下記目標をふまえて、それぞれの事業に取り組みます。ラオス事務所の自立に向けて、運営方法の改善を進めていきます。

- 親・地域を巻き込んだ読書推進活動を展開する。
- 「量より質」を重視し、会の主体を大切にした出版活動をおこなう。
- 読書推進活動を担う人材を育成する。
- ラオス事務所がカウンターパートとして自立できるように、準備をおこなう。

## II. プロジェクト運営

### ■ 出版プロジェクト

- 当会でなければ出版できない、質の高い図書を出版する。
- 図書、紙芝居を11作品出版する。
- 読書推進ニュースレターを2号発行する。

### ■ 読書推進活動

- 現地事務所の読書推進活動チームによる、学校訪問活動を積極的に展開する。
- 図書が設置されている小学校へ、フォローアップ研修を実施する。
- 4県30校で読書推進活動の担い手を育てる。
- 学校図書室を8校にて新規開設する。
- 学校図書室42校に図書を補充し、巡回して、活性化の働きかけをおこなう。
- ラオス語指導者育成事業の、仕上げワークショップを実施し、マニュアルを完成する。



### 子どもセンター

- プログラム支援のみに転換する。
- スタッフによる支援先巡回を継続する。
- 子どもの遊びの専門家の長期派遣を進める。

### ■ イベント・対外活動

- ブックフェスティバルなどの主催イベントを継

続する。

- 新事務所併設図書館で、定期的にイベントを開催する。

## II. 国内事業

### ■ 広報

- ニュースレターをリニューアルする。

### ■ インターン・ボランティア

- 分野毎のボランティアチーム結成を働きかける。

### ■ イベント

- 参加目的明確にして、主催イベントを中心とした参加をおこなう。

### ■ 開発教育

- 中高生を対象とした開発教育活動を展開する。

### ■ ラオス語絵本プロジェクト

- 著作権の再確認作業をすすめる。
- ラオス語訳文の内容チェックを進める。

### ■ スタディツアーの開催

- スタディツアーを2回程度開催する。

## III. 組織運営

### ■ 理事会

- プロジェクト予算管理と情報共有を徹底する。
- 2012年の創設30周年記念事業の準備を始める。

### ■ 会員

- 活動会員90名、サポーター160名を目指す。

### ■ 運営会議・勉強会

- 運営会議を奇数月、ラオスの勉強会を偶数月におこなう。

### ■ 計画評価・推進

- ラオス事務所とともに第5次中期計画の進捗状況のチェックをおこなう。

### 【東京事務所】

#### ■ 資金調達

- 物販活動の効率よい展開を図る。
- 各団体に対し、積極的に企画案を提案する。
- 企業と多様な形での連携を検討し、参加型イベントメニューを展開する。

### 【ラオス事務所】

#### ■ 体制

- 地方出張か可能な人材を増やし、事務所運営が滞らないように、人員配置をおこなう。
- 責任と専門性を上げ、プロ意識を高める。
- 事務所・併設図書館を住宅地域に移転する。

#### ■ 資金調達

- 昨年度の20%増額を目標とし、企業、外国政府、国際機関に対し働きかける。

## I. 基本方針

今年度から始まる第5次中期計画では、下記4点を基本方針としています。

- ◆子どもだけでなく地域を巻き込んだ読書推進活動を展開する。
- ◆出版については「量より質」を重視し、会の主体を大切にしたい出版活動をおこなう。
- ◆読書推進活動を担う人材を、事務所内外で育成する。
- ◆ラオス事務所が長期的にはカウンターパートとして自立できるように準備をおこなう。

これらの方針に基づき、これまでの活動も続けつつ、より現場と質を重視し、主体的に計画を立て、積極的に関係者に働きかける運営スタイルへと転換していきます。

## II. プロジェクト別方針・活動計画

### ■識字活動（読書推進活動）

- 教員を担い手とする「読書推進活動」から、子どもと地域の「識字活動」へ。

学校における図書室の運営において、地域住民、子どもが担い手となる〈図書委員会〉などを発足させ、運営支援をおこなう。

- 「眺める」から「楽しむ」「味わう」読書へ。セミナーの内容、方法の改善をおこなう。

- 教育省、地域の教育局等の行政機構を通じた、読書の普及活動を継続する。

読書推進センターの展開を推進する。県・郡・学校との連携のしかたを見直し、改善する。

- 活動の地域を絞り込む。
- 教員養成校へ働きかけを行う。

これまでの支援に対して評価活動をおこない、評価を踏まえて、ラオス語教授法の改善や奨学金の支援に関して、検討をおこなう。

### ■出版活動

- 多様な本を計画的に出版する。  
楽しい本、識字活動に必要な本、世界の名作、多様な価値の理解に役立つ本、ラオスの文化に関する本などを、多様に意識的に出版する。

### ■子どもセンター（CCC・CEC活動）

- 講座運営に対して、関与度を高めつつ、自発性を育成する。

プログラムの選択と集中を図りながら、支援を継続し、強化する。

- 地域との結びつきを強化する。  
地域住民が関わるプログラムの企画と実施し、

子どもが参加し、担う活動を形成してゆく。

### ■ALC図書館活動

- 新事務所で地域の図書館として活性化を図る。

\*ALC=「ラオスのこども」 英文略称

## III. 組織運営方針・活動計画

### ■運営方針

- ラオス事務所が独自に組織運営が可能となる体制づくりの準備をおこなう。
- 「もらうもの」から「買うもの」へ、図書の価値観を変えてゆく。
- 健全な財務体質を構築する。
- 活動の質と効率を上げ、活動の専門度を高める。
- 国内へラオス、世界の子どもたちの状況を積極的に伝える。



### ■組織体制

- ラオス事務所スタッフ全員が活動の趣旨を理解し、活動、運営に主体的に関われるように働きかける。
- 東京事務所専従事務局長を設定する。
- ボランティアの主体的参加の拡充を図り、自主的な活動で組織を担うようにする。

### ■資金調達

- ラオス国内の企業、外国政府、国際機関に対して、積極的に資金調達のための働きかけを行う。
- 売れる本も作る。
- 自己資金調達能力の向上により、財務基盤を強化する。

### ■広報

- ラオスの教育事情に関する情報や、活動に関する情報を積極的に発信する。
- 受け手に伝わるメッセージの発信力を強化する。

### ■ネットワーク

- 組織運営、事業展開の効果を高めるためのネットワークを強化する。

特定非営利活動法人ラオスのこども  
の目的は

子どもが自らの力を伸ばす権利、人生を主体的に  
選択する権利を全うできるよう、教育の普及に協  
力することで、公正で平和な地球社会づくりに貢  
献することです。

そのため、今日子どもが教育を受ける機会を十分  
得ていない地域のひとつ、ラオスにおいて、本の  
出版、読書の習慣の普及、子どもが集い遊び学べ  
る場の支援など、子ども自らが学ぶ力を伸ばす環  
境を生み出す活動を行います。

活動を通じて得た知識、情報は地域と地球社会に  
発信していきます。

活動にあたっては、子どもの参加と、日本および  
ラオスをはじめとした人々の参加を促し、誰もが  
対等に力を発揮し合う関係を作り出すことで、そ  
れぞれが成長の機会を得ることをめざします。

(定款第3条目的より)

特定非営利活動法人

ラオスのこども

DeknoyLao



□東京事務所

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12,303

TEL/FAX 03-3755-1603

E-mail [deknoylao@yahoo.co.jp](mailto:deknoylao@yahoo.co.jp) <http://deknoylao.org>

□ラオス事務所

ACTION WITH LAO CHILDREN

Noui 4, Ban Saphangmo, Muang Saysettha,

Vientiane, LAO P.D.R. P.O.BOX 1518

TEL/FAX 856-21-41-6064

E-mail [alclao@laotel.com](mailto:alclao@laotel.com)